

# 5年 学習成果発表会テーマ

## 「ムラサキ(紫根染め)と平館の関係を調べ、伝えよう」

### <学習成果物>

<p><b>紫根染の歴史</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 南部藩政時代</li> <li>・ 明治時代</li> <li>・ 大正5年</li> <li>・ 大正7年</li> <li>・ 昭和8年</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紫根染途絶える前</li> <li>・ 伝統技法を伝える人がなくなった</li> <li>・ 独自の技法を開発</li> <li>・ 南部紫根染研究所を設立</li> <li>・ 藤田謙が絞り技法の基礎を築く</li> </ul>	<p>私たちは、平館高校の人たちから貰った48株の苗を植えました。ですが、上手く成長したのは48株のうち33株でした。</p> 
<p>平館高校は2008年からは紫草の栽培を本格的に始め、学校近くの裏山に年間300本ほどの苗を植えている。また、紫根染の技を伝えてくれた地元の女性講師の高齢化により、直接の指導が難しくなり、その危機に立ち上がったのが「家庭クラブ」の生徒たちで、2016年からは「よりきれいに染めるにはどうしたらよいか」を本格的に研究し、技術を受け継ごうと努力を重ねた。2018年には「全国高校家庭クラブ研究発表会」で最高賞・文部科学大臣賞を受賞した。</p> <p>その研究の成果は、地域向けの紫根染体験教室や地域小学校での出前授業として還元されている。平館高校のムラサキは「伝統」「地域」をつないでいる。</p> <p>平館小学校でも、紫根染の体験を毎年行っている。また、ムラサキの植え付けは3年前から始まり、私達も体験した。</p>	<p><b>紫根で作る薬</b> しうんこう <b>紫雲膏</b> 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火傷（やけど）</li> <li>・ ひび、あかぎれ、しもやけ</li> <li>・ 魚の目（うおのめ）</li> </ul> <p><b>紫雲膏の値段</b> 約20g～30gは1000円～2000円 約50g 2000円～3500円</p> 
<p>❀紫草の生産量❀</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紫草の推定開花株数 2500個未満</li> <li>・ 発芽率 ↓ 死滅率 ↓ 約3% 98%を超えることがある</li> </ul> 	<p>私たちは、絶滅危惧種になった紫草を増やしたいです。だから、紫草のことを広めたり、地球温暖化があまり進まないように取り組んでいきたいです。</p> 
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 紫根の準備</li> <li>2. 紫根を砕く</li> <li>3. 染液の作成</li> <li>4. 染める</li> </ol> 	<p>❀紫草について</p> <p>小説家宮城野矢野（みやぎのやの）の遺稿（こころきょう）へのトランプアップを依頼（いらい）した際、その紫草を若手染匠平館昌徳の近代技法が博物館研究の先達としてトランプアップした。それが学校の授業に展開（ひらき）されたことがかわりです。絶滅危惧種の紫草の中心と、平館昌徳の生物研究への取り組みが結びつき、独自の授業が誕生しました。</p>  